

県南地区フォーラム

共 催：横手市教育委員会

開催日：平成24年11月10日(土)

会 場：横手市浅舞公民館

講演 「雪と語る－雪の不思議さについて－」



防災科学技術研究所
雪氷防災研究センター
新庄支所長
阿部 修 氏

暖冬傾向は終わり、雪と向き合う時代である。雪は温度により雪質が変化し様々な被害を及ぼす。雪質による変化の理解により安全保持を。

- 1 主な雪氷災害
 - ・道路の積雪による被害
 - ・電線着雪被害
 - ・屋根雪荷重による被害
 - ・農業被害等平成23年・24年は屋根への積雪に関わる被害が多い。
- 2 雪崩災害のメカニズム
- 3 屋根雪の危険生について
 - ・落雪被害の発生
 - ・雪下ろしの事故
- 4 事故軽減のために
- 5 事故軽減のために

被災地視察報告 「自助・共助・公助で紡ぐ防災の和」



横手市立十文字中学校
教諭 高橋 浩 氏

災害の備えとして最重要なことは日常生活（あいさつ・学習・部活動）を当たり前に行っていくこと。絆（家族、仲間、地域、先人）の大切さ。家族を信じ、てんでばらばらに避難する。「これより下に家を建てるな」地域を見守る先人の教え。

- 1 釜石市立釜石東中学校の視察から
 - ・災害時の行動原則
 - ・「正常化の偏見」の危険性
 - ・釜石東中の防災教育の3本柱
- 2 気仙沼市立階上中学校の視察から
 - ・3年サイクルで学ぶ防災活動
 - ・避難所開設に学ぶ共助の精神
 - ・階上中の防災教育の柱

パネルディスカッション

「学校における防災教育と地域連携の在り方」



コーディネーター 秋田大学地域創生センター

准教授 水田 敏彦 氏



日常的に連携を図っていた学校は安全確保ができて、正常化が速やかに進んだという報告が多数ある。ともに除雪をすることなど県南地区の特長を生かして日常生活の中で防災意識を高める工夫があればよい。

パネラー 大仙市立中仙中学校

校長 青谷 晃吉 氏



自分の身は自分で守る、自ら行動できる力が防災教育の根幹。想定工夫、生徒の地域での役割の自覚。

- ・大仙市総合防災訓練へ生徒や職員の参加
- ・本校の防災計画、防災教育
- ・市教委や他機関等との連携

パネラー 湯沢市立雄勝中学校

P T A副会長 高橋 誠 氏



助けを求める人がいたら手をさしのべる子ども。体力・知力・強い心を持って欲しい。

- ・県南での想定災害
- ・災害がおきたらどうするか
- ・被災地視察から子供たちに伝えたいこと

パネラー 横手市本町下丁自主防災組織

事務局長 加賀谷長吉 氏



地域での向こう三軒両隣による「互助」を目指す。消火訓練・救助・避難訓練の内容を毎年変更。災害時緊急避難場所の明示。地区住民による体験発表。

- ・毎年実施の訓練等のマ
- ・ンネリ化防止及び継続のための心掛け
- ・行政（中央公民館）との合同防災訓練

パネラー 横手市消防本部警防課

警防係長 菊地 俊宏 氏



自然災害は各地同時発生のため、対応は遅れる。自助・共助が重要。初期消火・救助活動等地域で実施すること。

- ・災害時の自助、共助、公助の役割。
- ・津波避難の知識習得の必要性。
- ・情報入手の重要性。
- ・地震想定自衛消防訓練を行う事業所が増加傾向。